

経済産業大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	取組の実践場所
	受賞テーマ

株式会社ウエルクリエイト

福岡県北九州市若松区を本拠地として日本全国、中国天津市、マレーシア
 キャメロンハイランドなど

北九州発の食品リサイクルループ形成による「地域循環共生圏の構築と普及・
 啓発活動」

受賞者は、食品残渣の地域内循環サービス「メリーズシステム」を独自開発し、行政、企業、大学、農家、消費者等と幅広く協働しながら、食品リサイクルループ形成による地域循環共生圏の構築を推進。北九州発の「地域食品資源循環ソリューション」として、廃棄ごみ及び廃棄コスト削減と安心・安全な食料生産の両立を実現し、全国で 715 事業所がループに参加のもと、食品循環資源 10 万トン/年の減量化・リサイクルに取り組んでいる。

団体視察・研修が可能な施設「北九州エコタウン食品残渣地域循環園リサイクルセンター」を稼働し、社会科見学、JICA 海外青年協力隊員の派遣前研修、世界銀行やマレーシア国廃棄物管理公社の職員研修等の受入れを定例的に継続するとともに、食品リサイクルに関する出前授業プログラムや子供向けチラシを作成するなど、食育・環境教育を通じた普及・啓発活動を推進している。

食品残渣の一次発酵物は、回収後に北九州エコタウンでの二次・三次発酵を経て完熟堆肥にリサイクルされ、提携農家へ提供。そこで生産された循環野菜は飲食店等で使用され、発生した残渣は再びメリーズシステムでリサイクルしている。

ポイントは、食品残渣が発生したその場で減量化・一次発酵させることで、回収頻度を月に 2 回～半年に 1 回程度まで減らし、収集・運搬コストを大幅に削減していること。これにより、焼却コスト (10 円/kg) より安価な食品リサイクルコスト (9 円/kg) を達成するとともに、農家も軽い負担でループに参加できるリサイクル堆肥 (3～6 円/kg) の提供を可能にしており、まさに「様々な主体が参画しやすい仕組み」を実現している。現在、北九州市を中核とした地域循環共生圏では、自治体・食品工場・病院・飲食店など 61 事業所がループに参加のもと、食品循環資源 8,000 トン/年を減量化・リサイクルし、320 トン/年の堆肥を製造している。



マーケットのニーズを的確に把握し、単なるモノ売りビジネスから早期脱却。効率的なリサイクルシステム実現の肝となる「地域の協働」を着実に積み上げるとともに、ビジネスとしてのコストメリットを可視化することで、参加メンバーが Win-Win-Win のビジネスモデルを実現し、リサイクルループ形成に不可欠なステークホルダー間の連携を創出することに成功している。

平成 31 年 4 月には、NTT 西日本グループの株式会社 NTT フィールドテクノと提携し、新たな食品リサイクル事業をスタート。今後、各社が強みを持つ分野で協働することで、食品残渣の処理・回収・再生に至る作業フローを効率化し、より経済的な食品リサイクルの仕組みを全国規模で展開する。また、これをきっかけに、新たな企業・自治体等とのネットワークを構築し、クラウド・AI・IoT 等を活用した食品リサイクルループ形成を促進する。



このような取組をもとに、SDGs ターゲット 12.3 (「2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品廃棄物を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品の損失を減少させる」) 達成に向けた牽引役を担い、さらに事業展開を深化・拡大しながら、地域・日本・世界に貢献していこうとしている。